

具体項目

国語

観点	発行者	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>1 教育基本法の理念や第二期の長期教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ、豊かな人間性の育成を図る観点から、郷土・自然・文化や歴史を題材として、長崎の特色を掘り起こし、地域に根ざった教材の活用を図る。</p>	<p>(1) 教科書の特質に「教育の質を高める」として、教育内容、指導目標、構成の観点から、教育の質を高める。</p> <p>(2) 郷土・自然・文化や歴史を題材として、長崎の特色を掘り起こし、地域に根ざった教材の活用を図る。</p>	<p>・日本の伝統文化・コミュニケーション・情報・命・環境といった題材を取り上げることで、我が国の伝統文化や自然を誇りに思い、社会形成に参画する人間を育成するよう配慮されている。</p>	<p>・家族・命・平和・国際協力といった題材を扱うことで、国際社会に生きる人間の育成を図るとともに社会の形成に参画する態度や環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮されている。</p>	<p>・日本の文化や自然、またそれにかかわる生き方や職業観を題材とすることで、社会生活での活用をねらうとともに、よりよい社会の形成に参画し、我が国の文化や自然を尊重する態度を育成するよう配慮されている。</p>	<p>・社会生活での活用をねらいとした教材を取り上げ、人とのかかわり・福祉・戦争・スポーツといった幅広い題材を扱うことで、よりよい社会の形成に参画し、命を大切にすることを心豊かな人間の育成を図るよう配慮されている。</p>	<p>・命・家族・情報・社会とのつながり・人としての生き方を題材とする教材を扱うことで、命を重んじ、よりよい社会形成に寄与する心豊かな人間の育成を図るよう配慮されている。</p>
		<p>・1年『集まって住む』で軍艦島の高層アパートが建ち並んだ様子を紹介し、当時の産業発展のために作られた集合住宅や軍艦島と呼ばれるいわれについて解説している。(筆者のイラスト付)</p> <p>・1年『碑』は、広島原爆を題材とした作品であり、長崎との関連がある。また、読書案内では、『15歳のナガサキ原爆』を紹介している。</p>	<p>・本県出身の作家の小説(『Water』・3年)と短歌鑑賞文(佐藤正午『ありのすさび』・2年)が載せられている。</p> <p>・2年『目撃者の目』には、長崎と佐世保の地名が登場し、被爆直後の長崎での筆者の体験と写真が平和への思いとともに掲載されている。</p>	<p>・2年『壁に残された伝言』は、広島原爆に関する内容を取り上げており、同じ被爆県として関連がある。</p> <p>・3年『花や咲く咲く』では、厳しい戦時中を生き抜いた少女たちの思いが描かれており、同世代の子どもたちが共感しやすい平和教材として掲載されている。</p>	<p>・2年『ふるさとの文学』に遠藤周作の『沈黙』の碑が掲載されている。『方言と共通語』に4つの方言の分布図を掲載し、自分たちの地域の言葉について理解を深めるよう工夫されている。</p> <p>・3年『語り継ぐもの』では、原爆詩を朗読する筆者の思いとともに本県出身作家の作品『娘よ、ここが長崎です』や作曲家を紹介している。</p>	<p>・郷土ゆかりの作家・作品として、外海を舞台としたキリスト教にまつわる遠藤周作著『沈黙』を紹介している。</p> <p>・1年『大人になれなかった弟たちに...』で広島・長崎の原爆が取り上げられている。3年『挨拶』では、広島原爆を題材として扱っており、同じ被爆県として関連がある。</p>

具体項目

国語

発行者		東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>2 の 学 習 指 導 要 領 の 目 標 や 内 容 等 を 踏 ま え て 確 か な 学 力 の 育 成 を 図 る 上 で</p>	<p>（1） て 確 実 に 的 に 習 得 さ れ る よ う な 知 識 ・ 技 能 が</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の場面で役に立つ「言葉の力」が示され、教材末の「てびき」や「学びの扉」、基礎編の「学びを支える言葉の力」を繰り返し学習することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られるよう工夫されている。 「読むこと」の教材末には、「広がる言葉」「広がる漢字」の項目が示されている。さらに、巻末では「広がる言葉」が例文を伴って多数掲載されており、多くの言葉を学習することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の教材末に自己評価項目を設け、「言葉の力」「考える力」「知識や技能」の習得状況を確認することで、基礎的・基本的な事柄を確実に習得できるよう工夫されている。 巻末に「注意すべき筆順」として、小学校6年生の漢字の中から筆順を間違えやすい漢字が抽出されており、正確な筆順で漢字を書くことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年巻末の「学習用語辞典」には項目の末尾に、関連の深い教材名や学年該当ページを併記することで、基礎的・基本的な知識・技能が3年間を通して学習活動に生かせるよう工夫されている。 「読むこと」では教材末の「学びの道しるべ」を通して、様々な言語活動に取り組むことで、段階的に、繰り返しながら知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材末に「ここが大事」、「学びの重点」の項目を設け、どのようなことに着目するのかを明らかにすることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られるよう工夫されている。 巻末の「練習問題」や「小学6年生で学習した漢字」では、漢字の読み書きを確認できる欄を設けることで、確実に習得できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材末には「学習の窓」として、身に付ける力のポイントが具体的に示されており、基礎的・基本的な知識・技能を確認しながら学習を進められるよう工夫されている。 小学6年生で学習した漢字が「手書き書体」で掲載されており、「とめ」や「はね」などが確認しやすく、漢字を正確に書くことができるよう工夫されている。
	<p>（2） か 等 た 知 識 ・ 技 能 を 活 用 し て 課 題 を 解 決 す る 力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」から「話すこと・聞くこと」、「書くこと」へつながる単元の構成になっており、前の領域で習得した知識・技能を活用して、次の領域の学習課題を解決することで、思考力、判断力、表現力等が育成できるよう工夫されている。 図表を活用した情報伝達、タウン誌の構成や表現効果に着目した推敲、ロゴマークやポスターを題材にした批評文作成など、実生活で活用できる言語活動を取り入れることで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元が全学年共通のテーマで段階的・発展的に構成されている。また、「読むこと」の作品の内容を表現活動につなげるコラムが掲載されており、習得した知識・技能を活用して、次の学習課題を解決することで、思考力、判断力、表現力等が育成できるよう工夫されている。 全学年の「読むこと」の教材末には「批評」として、自分の考えを深めたり他者と交流したりする場が設定されており、段階的・発展的に思考力、判断力、表現力等の育成ができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末の資料編「学ぶ力を高めよう」では、既習内容を基に考えるとき・調べるとき・表現するときの各課題で活用できる方法が掲載されており、国語科や他教科の学習において活用することで、思考力、判断力、表現力等の育成ができるよう工夫されている。 巻末や「読むこと」の教材末には「読み方を学ぼう」として、思考力、判断力、表現力等を伸ばす方法が記されており、他の教材の学習や日常生活で活用することで、それらの力を育成できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末の「学びのチャレンジ」において、身に付けた知識・技能を振り返るとともに「挑戦しよう」の項目を設けることで、学習した知識・技能を活用して思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 全学年とも画像や報道などのメディアと表現活動を関連付けた教材を取り上げており、異なる媒体による報道の比較などを行うことで、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の教材末に配置された「次へつなげよう」の中に、「生活に生かす」という項目があり、学習したことを日常生活に活用することで、思考力、判断力、表現力等の育成ができるよう工夫されている。 巻末の資料編には、本編の教材で学習したことを確認したり深化したりすることができる関連教材と課題が掲載されており、思考力、判断力、表現力等が育成できるよう配慮されている。

具体項目

発行者		東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	観点					
	(3) よを主 う養体的 工い、に 夫さる、学 されて習 ている習 か。慣が 身組 にむ 付態 く度	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に生活の様々な場面で役に立つ「言葉の力」の一覧が領域ごとに掲載されている。さらに、「言葉の力」の基礎をどう学んでいけばよいのかが具体的に示されており、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・「読むこと」の教材末の「てびき」の中に「たすけ」として、どういうことを手がかりにして考えを深めればよいのかが示されており、生徒が主体的に取り組めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の脚注欄に脚問として読解の視点が示されている。また、「学びの窓」として事前学習から事後学習までの流れを示すことで、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ・系統的に設定されたテーマに沿って漢字の学習が進められる。「～を見抜く」から練習問題、「漢字と用例」へと学習を進めることで、生徒が主体的に漢字の学習に取り組めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には、3領域1事項ごとに「つきたい力」を整理した一覧表が掲載されており、学習を進める上で生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・教材ごとの新出漢字について、練習問題及び巻末の漢字字典のページが記されており、調べながら学習を進めることができる。また、脚注欄には語彙を習得するための課題が示されており、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の各教材では知識・技能について重点化するとともに、学年末の教材では、これまで学習した知識・技能を基に総合的に学習していく構成とすることで、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。 ・言語事項の「言葉の小窓」「文法の小窓」では生徒にとって身近な言葉についての課題に気付かせるとともに、巻末の「解説」で体系的に理解できるよう構成されており、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「続けてみよう」では、1年間を通して取り組む課題が、各学年の学習指導要領の言語活動例と関連付けて設定されており、学習習慣が身に付くよう工夫されている。 ・学習した要点や関連のある事項をまとめたページ、また巻末の資料を示す表記が随所にある。それらを手がかりに学習を振り返ったり、発展的な課題に取り組んだりすることで、主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう工夫されている。
(4) とれ身各 アてに領 「いる域 ウ」話けら すこと、お 「読むい、 こと、うな 「聞く活 こと」動を 「通成 「書し、指 くこ導 こさ	<ul style="list-style-type: none"> ア「話すこと・聞くこと」 ・各学年とも「学びの扉」で「順序立てて説明する」「合意を形成する」など、学んだことを生かして話し合ったり、スピーチをしたりするという言語活動の流れを通して、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・2年「説得力を高める」では、「学びの扉」で論証の組立てをとらえた上で、反対意見を想定して意見文を書き、説得力のあるプレゼンテーションを行うという、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」が連動した単元構成になっており、学んだことを様々な学習場面で生かせるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ア「話すこと・聞くこと」 ・各学年とも言語活動に入る前の「活動を考える」で「ことはでつなく」、「よりよい判断に向けて」など、次の言語活動に向けての視点や課題を明らかにしており、課題意識をもって取り組むことで指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・3年「パブリック・スピーキング」では、意見文をパブリックスピーキングに書き換える言語活動を通して、意見文との違いを明らかにする。その上で、聞き手を意識して分かりやすく話す活動ができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ア「話すこと・聞くこと」 ・1年「討論ゲーム」、2年「パネルディスカッション」、3年「企画会議」では、各学年の発達段階や教材の連続性を考慮して、指導事項が身に付くよう工夫されている。全学年で学年末に「書くこと」と関連付けた活動が設定されている。 ・3年「状況に応じて話す力を養う」では、今までの読書生活を振り返りながら、相手と場面の組み合わせを複数設定し、ブックトークを行う。観点をはっきりさせて構成を考えたり、話し合いを行ったりすることで、指導事項が身に付くよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ア「話すこと・聞くこと」 ・従来の領域別から、単元別の構成となっている。「学びの重点」として「話題設定、取材・話す・聞く・話し合う」を提示し、課題を明示して学習を進めることで、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・3年「スピーチで学びを振り返る」では、活動のポイントや構成の工夫について分かりやすく提示している。また、発展的な学習「学びを生かそう」ではグループで模擬面接を行う活動が示され、学習したことを実生活に生かすことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ア「話すこと・聞くこと」 ・「学習の見通しをもとう」で、既習事項の確認や学習内容の流れが確認できる。活動ごとに「聞く・話す・話し合い・討論」といった言語活動の内容が示され、学年を通して、「話すこと・聞くこと」を網羅するよう工夫されている。全学年で学年末に「書くこと」と関連付けた教材が設定されている。 ・3年「社会との関わりを伝えよう」では、相手や目的を明確にし、場の状況に合わせてスピーチを行う。場面・相手と目的の組み合わせを複数設定し、話題との適合性やふさわしい言葉遣い、説明の仕方等を考えさせることで、指導事項が身に付くよう工夫されている。 	

具体項目

国語

発行者		東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
2 特長 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での	(4) 各領域における工夫がなされているが、言語活動を通して指導事項を身に付けられるような内容「書くこと」「読むこと」	イ「書くこと」 ・図表を用いた学校新聞作り、ミニ雑誌作り(編集)、過去の人物・未来の自分への手紙など、日常や社会生活の中から、多様な様式でまとめる活動を設定することで、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・「書くこと」の手順や具体的な内容を例示したり、「言葉の力」の欄で学習のポイントを示したりすることで、指導事項が身に付くよう工夫されている。全学年に物語・詩歌などの創作活動が設定されている。	イ「書くこと」 ・全学年「1絆」「2生命」「3群像」「4伝統」「5世界」という共通の単元名を設定し、副題で各学年の特色を出している。幅広いジャンルの文章と「選択教材」を読むことで「書くこと」の活動につながるよう工夫されている。 ・「読むこと」の内容を表現活動につなぐ「活動を考える」というコラムを設定し、単元で学習した教材本文を引用しながら「書くこと」の準備活動を行うことで、目的意識をもって学習できるよう工夫されている。	イ「書くこと」 ・リーフレット作りや古典作品の超訳、友情論を小論文の形式で書くなど全学年とも様々なジャンルの教材を準備し、学年の系統を考慮した教材配置がしてある。また、課題設定やレイアウトの例などを図式化して示し、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・脚注の「参考」の欄で、「書くこと」の学習を行う際に必要な用語について説明したり、引用や書き出しのポイントを簡潔に示したりすることで、書き方の基礎が理解できるよう工夫されている。	イ「書くこと」 ・1年「図表を用いて報告する」、2年「四コマ漫画から意見文を書く」、3年「広告を批評する」など、日常や社会生活の中から目的や意図に応じて課題を設定し、多様な様式で書くことにより、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・従来の領域別から、単元別の構成となっている。全学年、「課題設定・取材・構成・記述・推敲・交流・全過程」などの「学びの重点」を示し、活動の流れを意識して学習を進めることで、指導事項が身に付くよう工夫されている。	イ「書くこと」 ・2年「手紙を書く」の前に「推敲して適切な文章に直す」、3年「批評文を書く」の前に「観点を立てて分析する」など練習のページを設定し、基礎的な力を身に付けてから書く活動に取り組むことで、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・1年「一年間の学びを振り返ろう」など、全学年で学習のまとめとして、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」とを関連付けて学べるよう言語活動を設定している。全学年に物語・詩歌などの創作活動が設定されている。
		ウ「読むこと」 ・説明文教材では、表現活動と合わせた単元構成の工夫がなされており、「読むこと」と「書くこと」とを有機的に関連付けている。また、複数の文章を比較読みして自分の考えをまとめ、表現する活動などを通して、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・説明文教材・文学教材ともに「学びの扉」や基礎編「学びを支える言葉の力」で「文脈を捉え、伏線に気づく」、「論理的に読む」など、基礎的な言葉の力が身に付くよう工夫されている。	ウ「読むこと」 ・説明文教材・文学教材ともに、段階的な活動を通して読解力を養成する構成になっている。また、「発見する読み」において、読みの着眼点や思考の深め方を学ぶことにより、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・各教材ごとに学習の手引「学びの窓」を設け、学習のポイントを細かく示すことで、「言葉の力」、「考える力」、「知識や技能」を確認できるよう工夫されている。	ウ「読むこと」 ・説明文教材・文学教材ともに「読み方を学ぼう」で、説明文の基本構造や図表と文章の関係、三角口ジックや人物相関図など思考力や表現力を伸ばすために必要な方法が段階的に学べるよう工夫されている。 ・各教材にある「学びの道しるべ」の「学びを広げよう」では、発展的な課題を示しながら、様々な言語活動に取り組むことで、指導事項が身に付くよう工夫されている。	ウ「読むこと」 ・説明文教材では、全学年で2つ以上の文章について文章の構成や表現の特徴を比べたり、自分の考えとの比較や判断・分析をしたりするなどの言語活動を通して、指導事項が身に付くよう工夫されている。 ・説明文教材・文学教材ともに、手引「ここが大事」で読解のポイントを示すとともに、示された具体的な視点に沿って「話し合う」、「書く」活動を行うことで、指導事項が身に付くよう工夫されている。	ウ「読むこと」 ・説明文教材・文学教材ともに「学習の窓」を巻末の折込資料と関連付けて内容の理解を深めるよう工夫されている。また、「学習の見通しをもとう」では、各教材で身に付ける言葉の力や学習の流れを示しており、見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ・文学教材では、作品を読んで話し合ったり、批評したりする言語活動を設定することで、指導事項が身に付くよう工夫されている。

具体項目

観点	発行者	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長</p>	(5)	<p>・1年の古典学習の導入では、「猫」の話題を取り上げて、古典学習の意図を示すとともに、学習意欲を喚起させるよう配慮されている。また、巻末の資料編において、学年ごとに作品冒頭部分、作品背景の紹介文や伝統芸能、さらには文学年表を取り上げ、興味・関心を深められるよう工夫されている。</p> <p>・言葉に関するものとして、「日本語探検」「文法の窓」「漢字道場」の3単元があり、それぞれ系統立てて継続的に学習できるよう工夫されている。また、巻末の資料「基礎編」には文法解説および練習問題を設定し、基本事項の習得を確認できるよう配慮されている。</p>	<p>・各学年とも単元の最初に古文解説の教材を配置し、学習の視点を示唆することで古典学習への足がかりとなるよう工夫されている。どの学年も学習教材が多く採用され、また巻末には発展資料として古語文法、重要古語を紹介し、多面的な見方や古典知識を身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>・言葉や漢字の歴史、古典文法、注意したい古語を紹介するなど、言語文化が学習できるよう工夫されている。また、「言葉と生活・言葉と文化」や「語句・語彙の学習」では、日常生活から題材をとり、具体的に説明することで学習内容が理解できるよう工夫されている。</p>	<p>・1年の導入では「月」をテーマにした説明文で旧暦や百人一首に触れて古典世界へ誘っている。どの古典教材においても挿絵や写真が多く取り入れられ、学習者が想像しやすいよう工夫されている。また、巻末の資料編「読書の広場」では、より多くの関連古文を紹介して様々な作品に親しめるよう配慮されている。</p> <p>・言語については「文法のまど」「漢字のしくみ」「ことば発見」の3単元から構成され、系統立てて学習できるよう工夫されている。また、巻末の都道府県名の漢字表記確認ページや「学習用語辞典」は、学習者の視点で語彙力の充実が図られるよう工夫されている。</p>	<p>・古典学習の初めに「古文の扉を開く」(説明文)を示し、学習意欲の喚起を図っている。また教材関連絵巻を多く採用したり、「四季のたより」でテーマごとに和歌を紹介したりするとともに、巻末に折込資料として古文関連作品を取り上げ、関連させて学習することで古典世界へ誘うよう配慮されている。</p> <p>・「敬語」の学習では、2年で基本的な知識・理解を深め、3年で社会の中で活用できるよう工夫されている。漢字は、「漢字の広場」をはじめ、「練習ページ」や巻末の「練習問題」によって、繰り返し定着を図ることができるよう工夫されている。</p>	<p>・1年の古典学習の初めに「月に思う」を配置し、興味を喚起するとともに、3年生の古典学習の最後に「古典を心の中に」を取り上げることで古典学習の意義について理解を深めるよう工夫されている。「季節のしおり」として季節にちなんだ文学作品の冒頭部分や詩歌を紹介することで、より多くの作品に触れられるよう工夫されている。</p> <p>・「文法・漢字に親しもう」のページで学習後に基本問題を配置し、問題を解くことで基本事項の定着を確認できるよう工夫されている。また、巻末に折込資料として文学的、説明的文章を読むための学習用語をまとめてあり、豊かな語彙が身に付くよう配慮されている。</p>
	(6)	<p>・「読書への招待」が各学年3単元あり、全学年で日本の名作を取り上げるとともに、日本文化、現代社会(1年)、人権、科学・歴史(2年)、戦争・平和、暮らし・文化(3年)と、発達段階に合わせ、内容が多岐にわたっている。また、資料編とも併せて数多くの本が紹介されており、読書活動の充実を図るよう工夫されている。</p> <p>・「読書への招待」からつながる資料編「読書活動を楽しもう」は、情報収集の方法を身に付ける(1年)、情報を得て考えをまとめる(2年)、知識を広げたり考えをまとめたりする(3年)という各学年の「読むこと」の言語活動例として取り上げられている。</p>	<p>・読書教材として、各学年とも読み物を豊富に設定している。全学年で共通して、近代小説、随想、説明・評論文を取り上げている。内容は、近代の日本文学や芸術、平和、国際社会等、多岐にわたっている。2年の近代小説(夏目漱石『坊ちゃん』)では、作品の評論文を併せて掲載し、小説の読み方を考えさせる構成となっている。</p> <p>・全学年に設けてある「読書案内」では、全学年で「網」という言葉をキーワードに、1年では教材から読書活動を広げ、2年では文学作品から言葉を豊かにし、3年では説明文や評論文から物事のとらえ方を発見するようにしている。「網」が少しずつ編まれ広がっていくように、学年が上がるにつれて読書活動の幅が広がっていく構成となっている。</p>	<p>・「読書活動」として、1年では読書郵便、2年では本のポップ、帯作りという言語活動を通して読書活動の充実が図られるよう工夫されている。また、3年の「話すこと・聞くこと」単元で取り上げられているブックトーク、ビブリオバトルも読書活動へ広がるものである。各文学作品の後には、作者の説明や他の作品も紹介されている。</p> <p>・資料編に「読書の広場」を設け、「読書ガイダンス」では設定した6分野中4分野(いのち・ことば・こころ・くらし)を全学年共通とし、本を紹介している。また、各学年で古典芸能や古典作品を取り上げ、読書の幅が広がるよう工夫されている。情報探しや情報活用のヒントについては同じ内容で統一され、繰り返し学習することで定着するよう工夫されている。</p>	<p>・「読書への招待」が2単元あり、全学年で日本の名作を取り上げ、人権(1年)、試練を乗り越える(2年)、戦争と平和(3年)の各テーマの教材文を用いて、各学年の発達段階に応じた読書活動の充実を図ることができるよう工夫されている。3年では「傾向シート」「読書記録」「ビブリオバトル」等を紹介し、読書活動を振り返り、広げることができるよう工夫されている。</p> <p>・日本の名作では、作品解説を詳細に掲載したり複数の作家の作品を紹介したりすることで、近代の小説や物語への興味を高めるよう工夫されている。資料編では各学年に適した分野(1年6項目 例:探究、成長 2年5項目 例:自分探し、人の営み 3年5項目 例:本当の自分、若い心)で数多くの本を紹介し、読書への興味を高めるよう工夫されている。</p>	<p>・「読書案内」において、それぞれの学年に適した分野(各13項目:例 1年:部活・スポーツ、冒険、2年:職業、家族、3年:国際理解、恋愛)で数多くの本を紹介するとともに、それぞれにチェック欄を設け読書活動の振り返りができるよう工夫されている。また、小説家、翻訳家、映画監督の読書コラムが全学年で掲載されており、読書への興味を高めるよう工夫されている。</p> <p>・「読書活動」では、読書紹介(1年)、読書案内(2年)、読書生活デザイン(3年)という言語活動を通して、読書活動の充実が図られるよう工夫されている。資料編では「郷土ゆかりの作家・作品」(2年)、「古典・近代文学の名作」(3年)を紹介し、読書活動の幅が広がるよう工夫されている。</p>

具体項目

国語

観点	発行者	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
<p>3 らの学習効果や表記・表現の使いやすさ、表紙の裁断の長さ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点か</p>	(1)	<p>・文学教材、説明文教材、詩歌、古典等網羅されている。全学年でメディアに関する文章を掲載し、3年間を通してメディアリテラシーを高める構成となっている。3年では比較読みができる論説文が掲載されている。</p> <p>・各単元とも言葉の力をテーマとしており、学年が上がるにつれ深化できるよう工夫されている。</p>	<p>・言葉に関するもの、社会文化、国際協力といったこれからの社会を構成する重要な内容を取り上げている。古文や漢文も取り上げてあり、偏りなく構成されている。多くの教材文が掲載され、1、2年では随想文を複数取り上げている。</p> <p>・各学年において同一テーマで単元を設定し、学年が上がるにつれてテーマについての学びが広がるよう構成されている。</p>	<p>・文学教材、説明文教材、詩歌、古典等網羅されている。内容も、日本の近代文学や外国の作品、科学的なもの、異文化理解等多岐にわたっている。2年では講演録、談話も取り上げられている。</p> <p>・全学年において同一テーマで構成された単元もあれば、学年が上がるにつれてテーマに広がりをもたせて構成された単元もある。</p>	<p>・文学教材、説明文教材、詩歌、古典等網羅されている。全学年でメディアに関する文章を掲載するなど、これからの社会に関連の深いものを取り上げている。1年では、説明文の読み方を学ぶ文章が複数取り上げられている。</p> <p>・学期ごとに単元が構成され、学年が上がるにつれて言葉の力が深化するよう系統を意識した構成となっている。</p>	<p>・文学教材、説明文教材、詩歌、古典等網羅されている。科学や自然科学、芸術といった他教科との関連性の深いもの、日常生活に關係のあるもの等が取り上げられている。</p> <p>・1年間の学びを見通し、計画できるよう学習内容が表にして分かりやすく示され、偏りのない調和のとれた構成となっている。</p>
	(2)	<p>・説明文教材では、図表が学習の理解を高められるよう配置されている。全学年においてナビゲーターの役割をする登場人物が、生徒の学習理解を助け、学習意欲を高める役割を果たしている。</p>	<p>・表紙、見返し、扉、目次のイラストにストーリー性があり、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。文学教材では、挿絵を最小限に抑え、生徒の想像力を引き出すよう配慮されている。</p>	<p>・表紙、見返し、扉、目次には、生徒が親しみやすく、1年間の学習のスタートからゴールまで示唆する挿絵になっており、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。文学教材では、生徒の学習理解を高めるよう挿絵を多く配している。</p>	<p>・表紙の絵がとてシンプルで生徒の想像力を引き出すものになっている。文学教材は挿絵が少なめで、教材に応じて想像力をかきたて学習意欲を高めるものとなっている。説明文教材では図表や写真が多めに配され、生徒の学習理解を助けるよう工夫されている。</p>	<p>・表紙と裏表紙にストーリー性をもたせてあり、目次の下部には教材と関連する刺繍された絵が掲載され、生徒の学習意欲が高まるよう工夫されている。説明文教材には、図表や写真が多く、生徒の学習理解を高めるよう配慮されている。</p>
	(3)	<p>・奇数ページには、領域、単元名、教材名を記すとともに、領域ごとに色分けすることで、教科書を開きやすいよう配慮されている。従来のものから挿絵も改善されており、文法や「書くこと」の教材では、具体例を図式化して分かりやすく示している。</p>	<p>・サイズがA5からB5に変わったことで、古典教材などを中心に、文字が大きく、見やすくなっている。挿絵のサイズも大きくなっており、色彩もより豊かに表現されている。領域が色や枠で区別できるよう配慮されている。</p>	<p>・本文と区別できるよう「資料編」の端に色がついている。また、単元や「読み方を学ぼう」「書くこと」「話すこと・聞くこと」などは、色や線をつけることで、ページが開きやすくなるように配慮されている。挿絵は、より鮮やかに表現されている。</p>	<p>・領域別から単元別に構成が変わり、単元の初めと単元末の「漢字」「言葉」の部分が他と区別できるよう、端に濃い色が付いている。また、教材の始めが開きやすいように、端に薄い色がついている。巻末資料の端をインデックスのように内容や色で分類している。</p>	<p>・奇数ページには、単元名・教材名を記している。巻末資料の端をインデックスのようにすることで、ページが開きやすくなるよう配慮されている。単元の初めと「書くこと」「話すこと・聞くこと」のページには写真や色をつけて、他と区別できるようになっている。</p>